

事業所名： グループホーム サンパーク笑う門（だいちユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社サンメディカル		
事業所名	グループホーム サンパーク笑う門（だいちユニット）		
所在地	〒020-0823 岩手県盛岡市門1-15-27		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	令和8年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりとの関わりを大切に感謝の気持ちを言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるよう支援している。弊社サンメディカルは「その人のやりたいを叶える」と、社内ビジョンを掲げ、利用者様や家族様、社員がともに幸せになれるよう取り組んでいる。また福祉用具のレンタル、販売をしており利用者様の状況に合わせた福祉用具や衛生用品の提供ができる。また介護テクノロジー導入にも力を入れて取り組んでいる。健康管理では、口腔ケア、排便コントロールに力を入れている。食事は目でも楽しんでいただけるよう工夫し、家庭的な料理を提供している。水分摂取量を保ためにも好みの飲み物を準備し支援している。完成な住宅地に立地しており近隣には大きな公園もあり、散歩も楽しめる。ホーム敷地には畑があり、ブルーベリーを栽培し収穫などの楽しみもある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、系列の有料老人ホームとデイサービスセンターが隣接し、アパートや住宅、公園に取り囲まれた閑静な住宅街に位置する2ユニットの事業所である。地域によく馴染んで生活しており、本年6月には開設20年を迎える。法人本部が介護機器・福祉用具を取り扱っていることから、介護ロボット等のICTテクノロジーの導入を積極的に進め、利用者の安全な生活、介護サービスの質向上、職員の負担軽減等に効果を発揮している。ユニットの枠を外した柔軟な勤務体制により、ホーム理念に掲げる“私らしさ”を大切に利用者本位の介護サービスに努めており、看取りの実績も豊富である。職員研修にも力を入れ、ビジョンとして「より信頼される施設」を掲げ、「行動計画」により職員が具体的な目標に取り組む「社内ビジョン研修」を実施して、職員の資質向上に努めている。「ホーム理念」には「家族と地域と共に」を謳い、ホームとして地域との交流を一層活発にしたいとしており、コンパクトにまとまる地域において、在宅高齢者等に対してホームの知見を活かす取り組みが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域、家族も意識した表現の理念にしており、事務所内に掲示し意識できるようにしている。	事業所開設時に作成したホーム理念を職員間で共有しながら、利用者一人ひとりの「私らしさ」を受容し、その人が「何をしたいか、何を望んでいるか」を丁寧に聞き、よく理解し、ゆったりと笑って日々を過ごしてもらえるよう、介護サービスに努めている。管理者は、理念に掲げる「家族や地域と共に」を実践するための取り組みを工夫したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板や会報がきている。野菜や古新聞、花の苗をいただいている。	町内会から回覧版や行事案内の会報が回っており、地区の運動会を見物に出かけたりしている。地区の新年交賀会には管理者が出席し、地域の皆さんと交歓している。開設以来この6月で20年を迎えるが、地域によく馴染んでおり、利用者が散歩する際には、近隣の皆さんと挨拶を交わしている。近隣からは、野菜や花の苗が届くこともある。ホームでは、コロナ禍以降途切れがちになっている地域との交流を活発にしたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域スーパーの利用や、運営推進会議に民生委員や地域住民にも参加していただき、認知症ケアやホームの活動の報告を行っている。入居の相談や問い合わせに応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内、地域包括、薬局薬剤師、ご家族、利用者様に参加していただき、ホームの活動報告、利用者様の様子を報告し助言を受けている。	町内会の会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター、調剤薬局薬剤師、利用者、家族等の多彩なメンバーで2か月ごとに開催し、ホームの運営や利用者の状況等の報告をもとに熱心な話し合いを行っている。メンバーの提案で、衣料スーパーとボランティアが協力して実施している「スローショッピング」に本年度から参加しており、利用者の評判もいいことから、輪番で参加を続けたいとしている。ホームでは、テーマを設定して協議をお願いするなど、会議がマンネリ化しないよう努めている。また、地区交番や消防分署にも出席してもらえようお願ひしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	盛岡市や地域包括支援センターへ運営推進会議の記録を提出をし、多様な面での連携を図れるように取り組んでいる。	盛岡市とは主にメールや電話で情報交換をしている。運営推進会議録は、その都度、市担当課に郵送している。本年度、「生産性向上推進委員会」の設置、ICT等の活用による見守り機器や介護記録ソフトの導入等に伴う「生産性向上推進体制加算Ⅰ」の取得に際しては、市担当課から多くの助言、指導を得た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間の戸締り以外の施錠をすることなく、ご本人の気持ちを受け入れる支援を実施している。ご利用者様、職員の位置を徹底している。身体拘束防止委員会の取り組み、勉強会を行っている。	「身体拘束防止委員会」は両ユニットの管理者、両ユニットから1名ずつ、法人本部から1名の計5名により構成され、3か月に1回委員会を開催し、日々の介護サービスで身体拘束、行動抑制に該当するような行動がなかったか、確認を行っている。また、研修も定期的に開催し、事前に資料を配布し、勤務体制の関係から同じ内容で2回開催したり、オンライン研修を取り入れるなど、全職員が身体拘束防止に関する理解を深めることができるよう取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者が、その都度注意したり、申し送りの際に注意を喚起している。また、眠りスキャン等のICTテクノロジーの活用においては、利用者身体的、心理的な負荷がかからないよう留意している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や勉強会の実施、委員会の開催。認知症の理解に努め、受け入れることを基本としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修や勉強会に参加し職員間で共有、学ぶ機会にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には目的、入院した場合やお看取り、料金についての不明点、疑問点には、例を上げるなど説明し理解を図っている。料金の変更があった場合にも説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム玄関内に意見投書箱を設置している。面会時やサービス計画書説明時にもご家族の要望を確認し、反映できる部分については対応している。	利用者からは、食事に関する希望が多い。家族の面会は、週1回の人と2~3か月に1回の人など頻度に差がある。2か月毎に行事等でのスナップ写真により編集、発行する「ホーム通信」に加え、ユニット管理者により、一人ひとりの1か月の生活の様子を「ミニお手紙」にまとめ、送付している。その際、意見、要望等を寄せてくれるようお願いしている。家族からは「訪問診療時の医師の所見について知りたい」、「毎月の体重測定結果を教えてください」等の要望もあり、随時対応している。また、家族代表に運営推進会議に出席してもらい、貴重な意見をいただいている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り、および連絡ノートを活用しサービス計画、業務等に関して意見交換をしている。新人面談、希望面談を実施し提案や意見を聞く機会を設けている。	管理者は、6月、12月に職員全員と人事評価の個人面談を実施しており、その際にホーム運営に関する意見や要望も確認している。派遣職員や外国人実習生も含め、新たに採用した職員については、1ヵ月後、半年後、1年後に個人面談を行い、業務上の課題や悩みなどの話を聞くようにしている。職員からは、ベッドや車椅子の更新、災害時に備えた予備の車椅子の購入、事業所看板の設置等、積極的に意見や要望が出され、ベッドの更新、居室のドアノブの取替え、案内看板の設置等、ホーム運営や設備の改善に繋がっている。また、「より信頼される施設」を目指し、職員の資質向上に向けて、外部講師を招聘し、指導を受けながら、ホームの「行動計画(安定した介護サービスの提供・職員のコミュニケーション能力の養成・介護情報の収集等)」を定め、ホーム全体の目標と職員個々の行動目標を連動させる「社内ビジョン研修」に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務の役割、責任を持って行えるように、また、認知症ケアの不安を解決できるよう助言している。勤務表の公平を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護経験年数、経験歴などを参考に、希望も取り入れながら外部研修を受けれるようにしている。社内勉強会、施設内の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	社内研修で他部署からの研修受け入れや避難訓練など合同で行い交流の機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人を受け入れることを一番に考慮し、生活リズムの声かけを行い、強制することなく支援することから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談、申し込み、契約、面会時では傾聴することから始めている。電話やお手紙、ホーム通信などで様子が分かるよう報告に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報、見学時の様子で、どのような支援が必要か見極めながら、決めつけない、できること、不安に感じていることなど職員間で共有し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることは「一緒に」の声かけを意識し「ありがとう」の感謝の気持ちをお伝えし支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と一緒に支えたい旨を入居契約時や必要に応じて説明している。感染防止に留意し面会や外出など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙を書く、電話で友人や家族ととの会話やコミュニケーションがとれるよう支援している。自室には写真や手紙などを目に止まるようにし、馴染みを大切にしている。	家族以外で友人、知人等の馴染みの人と現在も繋がっているのは、両ユニット合わせて3、4名である。家族に手紙を書いたり、友達に電話する利用者もいる。コロナ禍以前には、家族がミニドライブに誘い、思い出の場所に利用者を連れていくこともあったが、最近は、そうした機会が減ってきており、ホームでは、家族と協力しながら、馴染みの人や場との繋がりを大切にしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	できること、興味がありそうなことなど職員と一緒に関わりを持ち、戸惑いや変化のサインに気づき寄り添い、関係づくりを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族の問い合わせ等にも可能な限り支援し、ケアマネジャーや医療機関、他施設担当者とのやり取りをしフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の今を探り、思いをくみ取れるよう支援にあたり、ケアカンファレンス、記録、申し送りや会議等での意見交換や情報を共有している。	両ユニット合わせ約半数の利用者は、自分の思いを伝えることができる。うまく自分の思いを表現できない利用者には、利用者個々のパーソナリティを尊重しながら声かけを行うようにしており、職員の対応次第で「発語」のある時もあり、職員は対応時の雰囲気づくりに配慮している。また、利用者の言葉はそのまま記録に残し、「利用者の生の声」として、職員間で情報共有し、日常のケアに生かすようにしている。	

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアマネジャーおよび相談員からの情報と入居前にご家族に聞き取りをし情報を得ている。様子に変化が見られた時にはご家族にも確認し理解努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	“いつもと違う”の気づきをするために、一日の様子シートで日々モニタリングしている。電子記録や介護ロボットを導入し、主治医に情報提供しやすくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の経過をモニタリングし柔軟に対応している。計画、評価については、ご家族、主治医、訪問看護、職員の意見を参考に半年毎に計画の見直しをしている。	介護支援専門員の資格を有する3名(ユニット管理者、職員1名)が計画作成担当者として、介護計画を作成している。従前の施設等からの関係資料をもとに、本人、家族の意向等を把握し、暫定のケアプランを作成し、1~2ヵ月後に本プランとし、その後は短期6ヵ月、長期1年で見直しを行うことを基本にしている。職員は、ケアプラン通りのサービスができていないか、利用者の状況とプランに齟齬が生じていないかなど、気付いたことを「モニタリングシート」(「一日の様子シート」)に整理しており、計画作成担当者が、このシートや日常の介護記録、訪問診療医師の意見、家族の要望等をもとにケアプランの見直しを行っている。	ケアプランは、計画作成担当者が、利用者、家族の希望、医師や訪問看護師の意見も取り入れ、ケアの役割分担を明確にし、きめ細かく作成していますが、「カンファレンス会議」等による職員間の話し合いは行っていないとのことであり、チームでつくるケアプランの観点からは、定期のオンライン会議等、職員同士で意見交換を行う機会を設け、利用者一人ひとりのケアプランの方針の共有と評価を行うことが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のモニタリング情報を職員間でアセスメントし、6ヵ月毎に計画の見直しをしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の身体状況に合わせ、当社の福祉用具の提供、介護保険更新手続き、病院受診、訪問診療対応を行っている。また、当社デイサービス、有料老人ホームをバックアップ施設としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の公園での町内運動会の応援に出向いたり、肴町でのスローショッピング、花見、紅葉などのドライブを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後も、ご本人やご家族の希望する病院に受診をお願いしている。その際、ホームでは記録の提供を行っている。受診対応したときは必要に応じてご家族へ報告している。	入居後もこれまでのかかりつけ医に通院している2、3名を除き、ほとんどの利用者が月2回の訪問診療の受診に変えている。皮膚科、眼科、耳鼻科等の特定診療と歯科は、家族同行による通院受診になっている。訪問看護師に週1回の訪問をお願いし、利用者の健康状態の観察を始め、健康管理について、助言や指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と契約し、週一回の健康相談をしている。訪問日以外にも電話で相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時には付き添い、病院側に情報提供をし、入院した場合でも安心していただけるよう連絡のやり取りに努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に医療連携体制および看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人には日々の生活の中で看取りの意向の確認をし、サービス計画書に記載しご家族と共有している。また、訪問看護、主治医との連携をとりチーム支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化・看取り指針をもとにホームとしての方針を伝えながら、人生の最期の迎え方について十分話し合い、利用者、家族の希望により看取り対応が可能であることを説明し、同意を得ている。その後も、状況の変化に応じて意向を確認するようにしている。協力医・訪問看護師等との連携のもと、ここ2、3年の間に6名の看取りを行ってきた。現時点では、看取り期の利用者はいない。職員の精神的負担にも配慮しているが、管理者としては、看取り後の職員間での振り返り(デスクカンファレンス)など、看取りに関わった職員のグリーフケアの内容を充実していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AED勉強会や正常に作動しているか毎日チェックしている。電話のそばに緊急連絡網などを置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回デイサービス、有料老人ホームと合同避難訓練を行っている。セコム火災センサーで地域住民代表者へ連絡がいくことになっている。	隣接する有料老人ホーム・デイサービスセンターと合同で年1回の水害訓練、年2回の火災訓練を行っている。火災訓練については日中に夜間想定訓練も行っている。また職員の緊急連絡網の訓練を行ったが、うまく連絡がつかないなどの課題が挙げられ、検証していくこととしている。避難誘導にあたり、事業所の名前が記載された反射材付きタスキを着用している。スプリンクラーを配備するとともに、火災発生時はセコム火災センサーにより大家さんに連絡がいく仕組みになっている。食糧、水等は3日分備蓄しているが、今後はライト付きヘルメット、自家発電機の購入を検討することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄ケア、入浴介助時にはご本人の羞恥心により配慮し、言葉かけや声の大きさなどにも気をつけている。居室戸口には暖簾をかけて自室の空間を大切にしている。	利用者一人ひとりの思いを尊重するよう心がけている。日頃の介護に当たっては、「自分だったらどんな介護を受けたいか」ということを常に念頭に置くようにしている。特に、排泄介助や入浴介助の際には、細心の配慮を心がけている。また、見守り機器やAIカメラの設置に際しては、プライバシー保護の観点から、利用者・家族に介護サービス上の目的や効果性について説明し、同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話や動作などでの不安、精神状態をくみ取り傾聴し、生活全般、排泄や睡眠などから状態を確認し環境を整え、自ら発することができるよう、ゆったりとした空間作りを心かけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事や1日の生活リズムはあるが、ご本人の希望などで、起床、就寝、食事時間はある程度、個々の状態に合わせたペースになっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容を利用し個々の希望の髪型にしている。衣類は選びやすく収納を整理している。また、衣類など買い物支援をしている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきや和え物、盛り付け、テーブル拭きなどのできることや、好んで取り組む作業を見極めて、役割が持てるように支援している。	ユニットごとに当番職員が調理している。食材はネットで2~3日分を購入し、メニューはその日の食材の内容や利用者の希望により決めている。両ユニットとも約半数の利用者ができる範囲内で皮むき、配膳準備、下膳、食器拭きなどを行っている。ほとんどの利用者は普通食であるが、両ユニット合わせ4名の利用者がミキサー食であり、また3名が食事介助を要する。コロナ流行後、職員と一緒に食事は摂らず、介助、見守り支援を行っている。行事食や時には外部から弁当を購入するなど、食生活に変化を持たせるよう工夫し、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の嚥下、咀嚼状態を観察し、食材の硬さや大きさに留意し、食事量、水分量を確認し摂取量の維持できるようにしている。また嗜好を考慮し提供、促しや声かけ、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後3回の口腔ケアは自室やホール洗面台へと声かけ誘導、口腔内の観察をし磨き残しや乾燥、義歯の状況に気をつけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の確認をし、トイレや自室に個々に合ったオムツ類を配置している。パターンや様子を見極めてトイレ誘導することでオムツ削減や自立に向け支援している。	排泄が自立している利用者は両ユニット合わせ2名である。日中は、定時誘導にならないよう、利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、声かけをしている。夜間は、「眠りスキャンAI」により状況をみながら声かけ誘導を行っており、利用者の安眠と職員の負担軽減に効果を発揮している。1名はポータブルトイレを使用している。職員は、利用者の排泄レベルが改善するよう介助や支援に取り組んでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や軽運動、献立、食事や水分摂取量に心がけて便秘予防に取り組んでいる。個別に排泄パターンを把握し、訪問看護や主治医に状態報告と薬も用いて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々の思いや状況に応じた声かけの対応をすることで、スムーズな入浴に繋がるようにしている。季節により、リンゴやゆず湯、入浴剤も楽しんでもらっている。	入浴日は特に定めていないが、利用者の希望や体調をみながら声掛けをし、週2回は入浴するようにしている。入浴時には全身を観察する良い機会であり、湿疹などの有無をチェックするようにしている。また、ラジカセを持ち込んで歌を聴きながらゆったりと入浴してもらったり、入浴剤、ゆず湯等を加えるなどの工夫もしている。だいちユニットにはリフト浴を導入しており、車椅子の利用者が活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温、寝具の調整、眠りの妨げにならないよう眠りの調整、眠りSCANの活用で過度な訪室を防ぐことで眠りの質を上げるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書や処方箋をコピーし個別にファイリングし症状や変化を把握し訪看や主治医に相談報告をしている。薬局との連携も強化している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご家族からも生活歴などの聞き取りをし、個々の得意なこと、出来ることを探り、役割が持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染に留意し、日常的なホームでの外出、散歩、ドライブ、買い物、病院受診の他、ご家族やご本人の要望で自宅等にも出かけられるよう支援している。	近くの公園への散歩や、車でスーパーに出かけたり、お花見や紅葉狩り等、四季のドライブ等を行っている。また、市内中心部の衣料品店での「スローショッピング」に出かけ、買い物をするなど、外出の機会を設けている。また、両ユニットでお互いに新聞を持って行ったり、職員と一緒に回覧板を回すなど、生活に変化を持たせるよう取り組んでいる。ホーム内の生活が中心になっている利用者に少しでも外の空気を吸ってもらうよう工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでお小遣いを預かり、個々の力に応じて買い物時など、見守りや一部介助しながら支払などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご親戚やご友人と手紙のやり取りを支援したり、ホームの電話を利用し遠方の方とも会話を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール天井にある大きな天窓にはシェードを設置し、光を柔らかくしている。ホールにはソファを置いたり、畳スペースもあり好きな場所で寛げる。壁には季節の装飾があり季節を感じていただいている。	ホール内には丸いテーブルが3卓、ソファが1卓配置されている。畳敷の小上りスペースがあり、お昼寝用に活用されている。利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごしている。ホール天窓にシェードが設置され、やわらかな陽ざしが差し込んでいる。床はベージュ、クロス壁はクリーム色と暖色系でコーディネートされ、明るい中にも落ち着いた雰囲気のホールになっており、利用者は日中をホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを楽しめる、会話を楽しめる、新聞や本をゆっくり読める、食事作りが見えるよう意識した配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、思い出の写真など持参していただき、ベッドや持ち込み家具の配置はご本人とご家族と相談して決めている。	各居室にはパネルヒーター、エアコン、洗面台、クローゼット、ベッドが設置されている。利用者によっては、家族写真、仏壇、使い慣れた家具や椅子等を持ち込んでいる。ベッド、テレビ、家具等は、入居時に利用者・家族と相談し、配置を決めており、自分好みの居室づくりを行っている。季節毎の衣類の入れ替えは、家族が面会の際に行うこともあるが、ほとんどはホームで保管し、職員が入れ替えている。また、両ユニット合わせて2、3名の利用者が職員と一緒に居室の掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線に手すりを設置。玄関には靴の履き替えがしやすいように椅子を置いている。自室やトイレが分かりやすくするため、暖簾や表札を貼っている。眠りSCANを設置している。		